

安全報告書

2010年度版

和歌山電鐵株式会社

1. 貴志川線をご利用の皆さまへ

和歌山電鐵(株)の経営理念は、創業者が常に大切にしていた「忠恕」(ちゅうじょ)という言葉です。“心からの思いやり”という意味ですが、我々が生業(なりわい)とする旅客運輸サービスの根底には、人としての思いやりが必要であることを説いているものです。そして、両備グループの統一した経営方針として

1. 社会への思いやりとして 「社会正義」
2. お客さまへの思いやりとして 「お客さま第一」
3. 社員への思いやりとして 「社員の幸せ」

を掲げ、社会正義の経営方針に則り、「安全」を最優先とし、「日本一安全な運輸企業」を目指し、社会のために、お客さまのために一所懸命に取り組んでゆく企業としての確固たる姿勢を宣言しています。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、私どもの安全への取り組みや、安全の実態について自ら振り返るとともに、皆さまに広くご理解いただくために公表するものです。この報告書をご覧になられた皆さまからの声を輸送の安全に役立て、今後の鉄道事業運営に反映させていきたいと考えています。

和歌山電鐵株式会社

代表取締役専務 磯野省吾(安全統括管理者)

2. 輸送の安全を確保するための安全基本方針

(1) 基本方針

私どもの安全に対する基本姿勢は第一にお客さまの安全の確保です。いかなる際にも安全第一の意識を持って事業活動を行える体制整備を心掛けるとともに、「安全基本方針」を次のように掲げ、社長以下従業員1人ひとり理解し、行動しております。

1. 安全の確保は、輸送の生命である
2. 規程の遵守は、安全の基礎である
3. 執務の厳正は、安全の要件である

(2) 年度目標(平成22年4月より)

平成18年4月より和歌山電鐵として貴志川線の営業運転を開始しましたが、5年目となる22年度は安全目標を次のとおり設定して取り組みました。

「全員で一致協力して安全確保、お客様へ良質なサービスの提供」

輸送の安全、お客さまの安全、我々従業員の安全を第一に、全員で全ての基本動作を確実に実行し厳守することとし、この基本動作の厳守を念頭において、繰り返し学ぶこと、また実践することといたしました。

また労働災害防止の取り組みについても、常に社員一人ひとりが意識をもっ

て業務遂行し、労働災害「0」を目指しました。

過去の災害事例、作業手順の確認や慣れに潜む危険要因等を安全会議および職場単位の会議で検討会を実施し、災害防止に取り組んでいくこととしています。

平成23年3月31日現在 全社連続無災害記録 「458日」

3. 事故等の発生状況とその再発防止措置

平成22年度に和歌山電鐵(株)で発生した運転事故等は、輸送障害事故2件でありました。

(1) 輸送障害(事故)

(ア) 輸送障害(保安装置故障)

- ・発生 22. 7. 16(金)・支障時間1時間32分(始発5:20~6:52) 運休8本、遅延27本
- ・状況 前日の配電線全面停電の夜間作業が終了し、3:30に配電線に送電したところ、伊太祈曽駅集中制御盤の岡崎前駅ARCに異常表示を確認し、遠隔制御不能となる。
6:52に岡崎前連動装置の停電及び低電圧防護継電器の落下持続を確認し、設定電圧の変更を行い復旧。
6:55 岡崎前連動装置を駅扱いにて運転を再開。
7:03 伊太祈曽駅による集中制御に戻し通常運行を開始して本復旧とした。
- ・原因 停電及び低電圧防護継電器(S)の設定不良
- ・対策 他の4連動装置の停電及び低電圧防護継電器の設定変更を同日午前中に実施。また同継電器の経年劣化を考慮し、更新計画を策定し実施。

(イ) 車両故障

- ・発生 22. 9. 29(水) 運休2本、遅延8本
- ・状況 和歌山発伊太祈曽行き第1311列車が13:18に交通センター前駅を出発するとき、ノッチを投入するも起動せず。その後C#2701号車断流器が動作していないことを確認、断流器の電磁弁を手動で操作すると動作したため、再度ノッチを投入すると正常な状態に復帰した。運転指令は、復旧連絡により運転再開をした。
- ・原因 断流器の補助フィンガー接点の接触不良(推定)
- ・対策 6組成の車両すべての断流器のフィンガー接点の圧力測定、動作電圧の測定、電磁コイルの抵抗値を測定し異常のない旨を確認した。

以上、2件の輸送障害を発生させました。

(ウ) その他

- ・置き石他による列車妨害の発生件数は3件/年でした。
(過去の発生件数：18年度4件、19年度10件、20年度3件、21年度12件) 子供のいたずらが大半であるが一つ間違えると重大事故につながる恐れがあるため、警察への通報の徹底、学校への報告と指導の要請を行い、同種いたずらの再発防止を図る啓発活動を続けてまいります。
- ・踏切しゃ断桿折損件数は18本/年と近年では突出、大半が損害請求できない当て逃げといえますが、今後も交通マナーの向上を訴えるとともに、設備面でも折損状況を分析し対応策を検討してまいります。

- 常に事故の無い、故障を起こさない鉄道施設を目指して維持管理に当たっておりますが、当面は老朽設備の改修を積極的に実施いたします。また故障や事故の異常時における安全輸送の確保、列車運行における影響をいかに少なくするか等の対応方も常に検討、指導してまいります。

(2) 事故、故障の芽・件数と内容

- 鉄道事故等報告規則による報告が必要なインシデントは皆無でした。
- 輸送障害・事故故障につながる芽(事象)としては、信号テコの取り扱いミス・ATS速照・制動確認不良・扉操作ミスの11件を発生させました(前年より1件の増加)。
- 人的要因に起因する芽(事象)は真摯に分析・検討し、「基本動作」の厳守を更に徹底指導して、事故・故障の芽を減少させてまいります。

4. 輸送の安全確保に対する取り組み

(1) 安全重点施策

(ア) 添乗指導の徹底実施

安全運転には、常日頃からの基本動作の遵守が第一であり、運転士に対する添乗指導が最も重要な方策と考えております。

長・助役は、常に心掛けて添乗指導の機会を多く持ち、運転技能、接客接客技能のレベルアップを図っています。

(イ) 出勤点呼時にアルコール検知等の実施

当社では、飲酒の状態での乗務は社会正義に大きく反することを機会あるごとに指導を行い、心身異常での乗務を完全防止しています。

出勤点呼は対面点呼を基本とし、薬物による心身の異常の有無の確認を最重要とした点呼を行い、アルコール検知を含め健康状態等のチェック

を徹底しています。

貴志駅出勤の運転士に対しては、テレビ電話での点呼としていますが、アルコール検知器を設置し、アルコールチェックと心身の状態等の確認を徹底すると共に伊太祈曽駅到着時に対面点呼による再確認を行っています。

(2) 各種運動への積極参加

下記の運動には、期間中の取り組み計画を立てて、全員が積極的に参加して実施いたしました。

期間中は、添乗指導の強化期間として指導項目を明確にし、長・助役・主任は運動期間中、添乗指導と施設の確認を行いました。

- ・春の全国交通安全運動 22.4.6～4.15
- ・全国安全週間 準備月間 22.6.1～6.30 本週間22.7.1～7.7
- ・安全運転推進運動 22.7.11～7.20
- ・秋の全国交通安全運動 22.9.21～9.30
- ・全国労働衛生週間準備月間 22.9.1～9.30 本週間22.10.1～10.7
- ・踏切事故防止キャンペーン 22.11.1～11.10
- ・年末年始の総点検運動 22.12.10～23.1.10
- ・車両火災予防運動 23.3.1～3.7

(3) 年間の教育計画実施

・運転士指導訓練

徹底した添乗指導より、全運転士の運転技能のレベルアップを図っています。

運転指令員・助役・運転士・技術係員合同による異常時訓練・車両連結訓練の実施：7月

・助役指導訓練

毎月1回実施している助役会議で、係員に対する指導方針の検討及び運転士、駅掌からの意見の集約、ボトムアップを図っています。

変電所遠隔制御監視装置の取り扱い手順説明会の実施：4月

・安全会議の開催 1回/月

部長、課長、助役、主任により実施し、会社の状況説明、前月の事故故障、当月・今後の行事予定発表、苦情メールやお客様の声、職場の問題点と解決方法等を議題として取り組んでいます。

・保守外注責任者会議の実施 2回/年

保守外注会社（3社）の現場責任者と技術課全員で、作業の安全、意見、問題点等の検討・討議を行っています。

・技術課・課内会議の実施 1回/月

毎月の作業実績、来月の行事と作業予定の確認及び技術課教育として、

課題研修を実習中心に実施しています。

電気安全衛生心得雇い入れ時研修の実施：10月

・ 接遇研修の実施

社外講師（和歌山県おもてなしアドバイザー派遣事業）により営業課・和歌山駅係員を中心に実施：7月

5. 安全に関する設備更新と今後の取り組み

(1) 設備更新（補助金事業と受託工事）

(ア) 変電所の集約及び電車線昇圧

日前宮、伊太祈曽、及び甘露寺の各変電所では全ての機器の経年劣化が著しいため、3変電所の効果的な施設更新を検討した結果、変電所を1箇所集約（伊太祈曽駅構内）して電車線電圧を1500Vに昇圧する基本方針を定め、21年度より工事着手し、23年度末の竣工を目指して実施しています。

今年度は、変電所建屋新設と碍子増設と支持物増強・木柱からコンクリート柱への交換を実施。区間 吉礼～甘露寺前駅間（碍子増設：656個と支持物新設7箇所8柱、撤去13柱）

(イ) 日前宮6号踏切道改良工事完成

従前の道路をオーバーパスする立体交差化計画（和歌山県）が変更され、平面交差化として施工することとなり、平成21年8月に着工し、平成22年8月に工事完了いたしました。



施工前↑



施工後↑

踏切保安装置供用開始・平成22年7月30日夜間

(㊦) 岡崎前分岐器の重軌条化更新

保安度向上のため、分岐器33P、34Pを50Nレールに更新いたしました。

分岐器33P平成22年10月6日夜間

施工前↓



施工後↓



分岐器34P更新・平成22年11月15日夜間

(I) 貴志駅駅舎の大規模リニューアル

鉄道駅舎として日本初の檜皮葺き屋根を持つ「たま駅長」にちなんだ駅舎です。多目的トイレ等も整備され、地元の果物を用いたジェラートなどが味わえます。



貴志川線・貴志駅新駅舎にて開業・平成22年8月4日

(2) 今後の設備更新（計画）

貴志川線の最大の課題は、施設（架線柱・枕木・道床…変電所・踏切）等の老朽化ですが、今後も自治体と十分に協議して、個々の設備を確実に精査し更新計画を図り、安全性及び利便性の向上を図ります（優先順位を決めて計画）。

(ア) 分岐器更新

保安度向上のため、日前宮、岡崎前駅分岐器改良に引き続き、伊太祈曽駅分岐器についても同様の計画を行い、23年度中の施工が確定いたしました。

(イ) 変電所の集約及び電車線電圧昇圧

変電所を1箇所集約（伊太祈曽駅構内）して電車線電圧を1500Vに昇圧する工事は、23年度末の竣工を目指して実施しています。

(ロ) 木枕木をコンクリート枕木化及び道床の砕石化

線路の保安度向上及び乗り心地の改善を行うため、木枕木からコンクリート枕木への更新及び道床砕石化工事を実施していきます。

(ハ) 木柱の支持物をコンクリート柱化

経年劣化による老朽化木柱の更新を実施していきます。

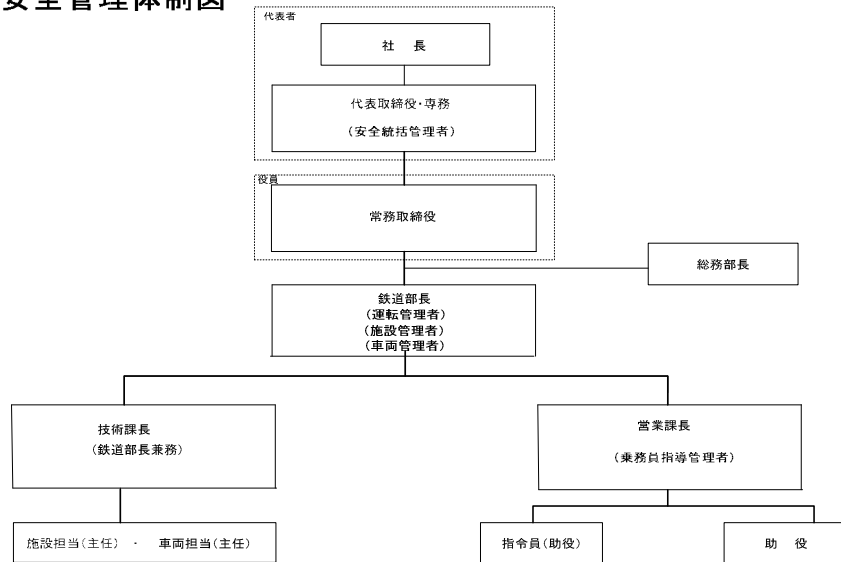
(ニ) 列車運行管理装置（PTC）の導入計画

伊太祈曽駅を制御所（親装置）として、和歌山、日前宮、岡崎前、貴志の出発信号機をCTC装置を介して制御する列車運行管理装置を導入することにより、人的ミス等の防止を図り、保安度の向上を図る装置を導入する計画を継続検討いたします（CTC装置の老朽化対策）。

6. 和歌山電鐵(株)の安全管理体制

代表者を最高責任者とし、実務執行責任者である安全統括管理者のもと、各責任者の責務を定めています。

安全管理体制図



役 職	役 割
代表者（専務取締役）	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
代表取締役専務 （安全統括管理者）	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
総務部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。
鉄道部長 （運転管理者）	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
営業課長 （乗務員指導管理者）	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
技術課長（鉄道部長兼務） （施設・車両管理者）	安全統括管理者の指揮の下、軌道施設に関する事項及び、車両に関する事項を統括する。

7. 地域の皆さまとの連携

(1) 地域での安全への取り組み

(ア) 貴志川線運営委員会

貴志川線の永続的運営を基本理念とし、地域、行政及び各種団体等が連携し、貴志川線の利用促進と沿線のまちづくりの推進を図ることを目的としています。

和歌山県・和歌山市及び紀の川市交通政策担当課、和歌山商工会議所、

紀の川市商工会、和歌山東高校、貴志川高校、貴志川線の未来をつくる会、和歌山の交通まちづくりを進める会、それに和歌山電鐵(株)のそれぞれの代表者が毎月第三木曜日に集まり会議を持っています。

上記目的に沿って、沿線住民の貴重なご意見、安全対策、輸送障害等の報告事項も含めて、さまざまな意見交換、情報交換を行い、討議しています。

(イ) 和歌山電鐵貴志川線・地域公共交通活性化再生協議会

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、地域公共交通総合連携計画を定め、創意工夫による多種多様な取組みを実施するための協議機関として、上記 運営委員会と同様の委員により20年3月に設置いたしました。

幹線鉄道等活性化事業による利用促進や利便性向上のための施策を今後も協議してまいります。

(ロ) お客さまからの苦情、ご意見

お客さまからの直接駅への申し出、電話やメールでの苦情、ご意見については、受付ノートの作成、社内メールの回覧等で徹底し、全員に周知しています。

8. ご連絡先

安全報告書へのご感想、私どもの安全への取り組みに対するご意見をお寄せください。ご連絡先は次のとおりです。

和歌山電鐵株式会社 鉄道部・総務部	〒640-0361 和歌山市伊太祈曽73番地
TEL 073-478-0110 FAX 073-466-3577	
E-mail info@wakayama-dentetsu.co.jp	
■業務時間 月～金曜日 8:30～17:30 (土日祝及び年末年始は除く)	